

しろいし 市議会だより

2019
秋
第195号

〔表紙写真〕
第33回しろいし蔵王高原マラソン大会



- 2～3P 9月定例会の概要・審議した議案・
議長、副議長のあいさつ
- 4～5P 決算審査特別委員会
- 6P 予算審査特別委員会
- 7P 常任委員会
- 7～8P 討論
- 8～15P 市政に対する一般質問(14名)
- 16P 各種委員会設置
- 17P 8月臨時会
- 18P 人事・議案の賛否一覧・編集後記

9月定例会

平成30年度決算を認定 一般会計補正予算など22議案可決

令和元年9月定例会は、9月5日から9月24日までの20日間の日程で開催されました。市長提出議案は、人事2件、専決1件、平成30年度各会計決算の認定2件、条例等11件、令和元年度各会計補正予算6件の計22件でした。

定例会初日、第53号議案から第55号議案が提案され、採決の結果、全会一致で同意・承認しました。

2日目、第56号議案及び第57号議案の質疑が行われ、決算審査特別委員会に審査が付託されました。

3日目、第58号議案から第74号議案の質疑が行われ、条例3議案は総務産業建設常任委員会に、予算6議案は予算審査特別委員会にそれぞれ審査が付託され、その他の議案は、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

一般質問は、9月19日と20日の2日間で、14名の議員が質問を行いました。定例会最終日の本会議において、各委員長報告を行なった後、第56号議案及び第57号議案については、反対及び賛成の討論があり、採決の結果、賛成多数で認定され、残る議案については、全会一致で原案のとおり可決しました。



市長の提案理由説明

審議した議案の主なものは次のとおりです。

条例等

◎損害賠償に関する和解について

東京電力福島第一原子力発電所事故により生じた事故被害対策経費のうち、東京電力ホールディングス株式会社が

賠償にに応じていないものについては、第425回市議会定例会

で議決を得て原子力損害賠償紛争解決センターへ和解仲介の申立てを行なっていました。同センターより和解案の提示があったことからこれを受諾し、

和解するため、地方自治法第96条第1項第12号の規定により、議会の議決を求めるものです。

○和解金額

1千367万1千円

就任のあいさつ



議長

小川 正人

副議長

澁谷 政義

市民の皆さまには、日頃、市議会に対し、格別なるご支援をいただいておりますこと、心より厚く感謝申し上げます。

第436回市議会臨時会において、議長、副議長の要職をつとめさせていただくことになりました。身に余る光栄と同時に責任の重大さに身が引き締まる思いであります。私どもはその責務を果たすべく「白石市議会基本条例」に基づいた議会活動を推進し、議員一人一人が最大限に能力を発揮できるよう努めてまいります。

また、行政へのチェック機能を怠ることなく、二元代表制の一翼を担う議会としての資質向上を図り、諸課題に対する審議・提言に取り組んでまいります。

さらに、本市の第5次白石市総合計画も9年目の半ばを迎え、現在、第6次白石市総合計画の策定が進められておりますことから、市当局と連携を図り、市民生活の安定と福祉の向上を図るべく提言を行なってまいります。市民の皆さまの二層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。就任のあいさついたします。

◎白石市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例

◎会計年度任用職員制度の導入に伴う関係条例の整備に関する条例

地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の公布により、これまで幅広く行われていた特別職及び臨時職員の任用が厳格化され、新たに会計年度任用職員制度が導入されます。

会計年度任用職員は、一般職員同様の身分や服務規律が適用され、勤務条件も一般職員に準じることから、新規条例の制定及び制度導入に伴う関係条例の一部を改正するものです。

予算

◎令和元年度白石市一般会計補正予算(第4号)

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ5億1千671万4千円を追加し、予算総額を149億5千821万4千円とするものです。

主な内容は次のとおりです。

- プレミアム付商品券事業 1億7千890万円
- 幼児教育・保育無償化事業 3千680万3千円
- 保育所等整備事業 1千957万5千円
- 農商工連携を核とした賑わい交流拠点施設整備事業 1千500万円

本会議質疑より

◎平成30年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

〔質疑〕平成30年度決算を受け、本年度の残りの施策及び来年度の予算編成に対し、どのようになかしているかと考えているのか伺う。

〔答弁〕今後の行財政運営については、単年度での黒字化を目指していかねばならないと考えている。そのためには、そ

れぞれの事業に対して「コスト意識を持つことが非常に重要である。」

「行政は、最少の経費で最大の効果を上げる」、これは行政の大きなテーマでもあることから、前例踏襲にとらわれず、コスト意識を持って事業を遂行しながら、来年度の予算編成に結びつけていきたい。

◎平成30年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定について

〔質疑〕昨年、下水道料金が改正されたが、将来的に水道料金の見直しなども考えているのか伺う。

〔答弁〕本市の水道事業は非常に厳しい事業環境にあり、今後は経営戦略を見直す必要があると考えている。

広域水道の受水料金改定の案件が県議会の9月定例会にかけられていることから、その結果を踏まえ、今後の経営戦略の中で水道料金改定の必要性及び改定時期について検討していく考えである。

9月定例会で審議した議案

議案番号	件名	審議結果
第53号	市長提案 教育委員会委員の任命について	同意
第54号	市 長 提 案 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	同意
第55号	専決処分の承認を求めることについて(専決第8号) (令和元年度白石市一般会計補正予算)	承認
第56号	平成30年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
第57号	平成30年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定について	認定
第58号	損害賠償に関する和解について	原案可決
第59号	白石市会計年度任用職員給与及び費用弁償に関する条例	原案可決
第60号	会計年度任用職員制度の導入に伴う関係条例の整備に関する条例	原案可決
第61号	白石市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第62号	白石市企業立地促進条例の一部を改正する条例	原案可決
第63号	白石市材木岩公園等設置条例の一部を改正する条例	原案可決
第64号	白石市水道給水条例の一部を改正する条例	原案可決
第65号	白石市幼稚園設置条例の一部を改正する条例	原案可決
第66号	白石市子どものための教育・保育給付に関する利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例	原案可決
第67号	白石市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	原案可決
第68号	白石市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	原案可決
第69号	令和元年度白石市一般会計補正予算(第4号)	原案可決
第70号	令和元年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決
第71号	令和元年度白石市介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
第72号	令和元年度白石市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
第73号	令和元年度白石市水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決
第74号	令和元年度白石市下水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決

決算審査特別委員会

第56号議案・平成30年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について及び第57号議案・平成30年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目(9月9日)の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員(松野久郎)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・四竈英夫、副委員長・大野栄光)は、9月11日に現地を調査し、9月11日及び12日の2日間にわたり審査を行いました。その結果、第56号議案及び第57号議案については、反対及び賛成の討論があり、採決の結果、賛成多数で認定しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

〔質疑〕試験運行である市内中心循環バスの利用状況と今後について伺う。

〔答弁〕平成30年10月から市内中心循環バスを試験運行しているが、昨年は月230人程度の乗車が続いていた。このことから、チラシなどを討じていきたいと考えている。

民生費

〔質疑〕高齢者福祉事業における敬老会については、平成30年度から各地区の自主的な開催について助成をしていくという改正がなされた。

平成30年度では31団体が開催しているが、どのような団体で、どのように行われたのか伺う。

〔答弁〕団体については、越河、斎川、小原、大平、白川の5地区では地区全体で敬老事業が開催された。また、その他については、自治会単位で行われており、全部で26団体となっている。自治会単位の場所では、お互いに顔見知り同士という関係も相まって参加しやすい雰囲気となっていた。また、自治会からは、高齢者の確認が再確認しやすくなったという話も伺っている。

商工費

〔質疑〕白石スキー場整備事業について、平成30年度は前年度に比べ入場者数が約2千人減っている。

特に3月と比較すると約3千人近く減っている状況だが、原因をどのように考え、また次年度に向けて何か検討しているのか伺う。

〔答弁〕平成30年度は、雪解けが2月の中旬ごろから始まり、3月に入ってからコース状況がかなり悪化したことから、入場者が減ってしまった。

今後は、関連する施設の改善やコースの整備を行うとともに、夏場、秋場に関するスキーシーズン以外でも、さまざまな施策を行なっていく予定としている。

土木費

〔答弁〕まず、入居前の部屋全体の大規模改修を行っており、11室の実績がある。

また、給水施設として、新館、城南、緑が丘、岩崎市営住宅のポンプ設備修繕工事も行っており、合わせてこの額となっている。

教育費

〔質疑〕小中学校教室エアコン設置事業について、設置費にかかる台数の単価が各学校によって大きく違っているが、その理由を伺う。

〔答弁〕今回の設置に当たっては、今後10年間の燃料代や維持管理費なども含め、最も安価な方法であるガス式エアコンと電気式エアコンのバستمックスを検討し、各学校ごとに設計している。

ガス式、電気式の構成割合なども異なり、教室の広さによってもエアコンの単価が違ってくることから、各学校によって設置費用が違っているものである。

また、可能な限り高圧受電装置の改造はしない方向で進めていたが、一部にはどうしても改造しなければならぬ学校もあり、このことも要因のひとつとなっている。

特別会計

〔質疑〕 国民健康保険制度については、平成30年度より県が責任主体となって行う制度改正があったが、この改正により本市にとって財政的な面や事務的な面がどのように変わったのか伺う。

〔答弁〕 制度改正後、初年度となった平成30年度決算においては、国保事業費納付金を県に納め、県から普通交付金として保険給付費の全額が交付されるということで、一定程度安定した運営ができたと思っております。

また、前年度繰越金などを除いた単年度収支では、法定外繰り入れは行わずに、平成29年度と比較すると約1千371万円赤字が減少した。

なお、事務的な部分はほとんど変わっていないことから、職員の負担が減ったということはなく、改正前と同様な状況となっている。

〔質疑〕 国保事業費納付金について、どのように算定されているのか伺う。

〔答弁〕 国保事業費納付金の算定については、まず県で全体の保険給付費を算定している。

国・県繰入金、前期高齢者交付金など公費で賄われる分を除いた必要額を各市町村ごとの被保険者数、所得水準で案分し、それに医療費水準を反映させ、市町村個別に調整して決定される。

本市の平成30年度国保事業費納付金は、医療分について6億110万1千270円、後期支援分について2億1千305万1千312円、介護分について6千596万8千282円、合計で8億8千12万864円となっている。

企業会計

〔質疑〕 水道事業の有収率について、平成30年度は73.13%で、前年度よりも約1ポイント回復しているが、依然として低い有収率である。この有収率に関し、現在どのように考えているのか伺う。

〔答弁〕 本市の水道事業は依然低い状況にあり、宮城県内で比較しても、下位に位置している状況である。

現在、有収率の向上基本計画を策定し作業を進めており、配水管の系統別配水量の監視と分析、音による漏水調査などを行なっている。

この分析及び調査については、継続して長い努力が必要であると認識しているが、今後もこれを継続することにより、有収率を上げていきたいと考えている。

〔質疑〕 下水道使用料について、昨年10月の改正により約5千600万円の増となったが、一般会計からの繰入金は前年度より約1億3千万円の減

となっている。改定された下水道使用料と一般会計からの繰入金の間関係はどのようになっているのか伺う。

〔答弁〕 一般会計からの繰入については、下水道事業の運営に必要な資金として行なっているもので、平成30年度については、平成29年度より減額となっているが、これは下水

道使用料改定による増収効果により必要資金が減少したことによって繰入金が減少したものである。おの必要額については関係はあるが、下水道使用料改定による額と繰入金がいコールということではなく、その額が同じように動くものとはなっていない。

平成30年度 一般会計・特別会計決算の状況

〔単位：円〕

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
一般会計	15,348,157,043	14,944,174,433	403,982,610
特別会計	8,143,102,860	7,823,132,410	319,970,450
国民健康保険	3,949,545,518	3,883,019,648	66,525,870
介護保険	3,780,465,453	3,549,793,898	230,671,555
後期高齢者医療	413,091,889	390,318,864	22,773,025
合計	23,491,259,903	22,767,306,843	723,953,060

平成30年度 企業会計決算の収支状況

〔消費税相当額を含む〕〔単位：円〕

会計名	収益的収入	収益的支出
水道事業	922,202,598	937,102,179
下水道事業	927,208,823	950,207,534

会計名	資本的収入	資本的支出
水道事業	186,646,190	340,311,338
下水道事業	660,524,091	944,799,778

予算審査特別委員会

第69号議案・令和元年度白石市一般会計補正予算(第4号)から第74号議案・令和元年度白石市下水道事業会計補正予算(第1号)の計6議案について、定例会3日目(9月10日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・平間知一、副委員長・佐藤秀行)は、9月11日に現地調査を行なった後、9月13日に審査を行い、すべての議案について、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

総務費

〔質疑〕白石市プレミアム付商品券事業における取り扱い店舗は現在、どのくらい加盟しているのか伺う。

〔答弁〕使用可能店舗については、公募により9月10日現在で107店舗の登録をいただいております。今後も引き続き募集を継続していく。

〔質疑〕このプレミアム付商品券は、品物の購入だけではなく、修繕などサービスの提供にも使えるのか。

〔答弁〕登録店舗は食料品の小売が大多数を占めているが、自転車販売店や建築店、理容店、美容店なども登録をいただいております。サービスの提供にも使っていくことができる。

なお、詳細については今後、市のホームページでお知らせするよう準備を進めているところですので。

民生費

〔質疑〕福岡小学校放課後児童クラブ工事費について、その内容を伺う。

〔答弁〕本工事ではクラブ室を改修するが、まず教室に畳を新設する。

また、エアコンの設置や吐き出し戸などの交換、窓へ網戸を設置するほか、廊下のアコーディオンカーテン移設を予定している。

農林水産業費

〔質疑〕しろいしサンパーク内の外構工事について、具体的なスケジュールを伺う。

〔答弁〕地元食材活用レストランみのりキッチンの完成後に外構工事を整備することとなるため、工期は来年3月末までを予定している。

商工費

〔質疑〕台南和風文化祭出展業務委託料について、その内容を伺う。

〔答弁〕台南和風文化祭は、台湾の台南市文化局、社団法人台南市台日友好交流協会及び日本の地方自治体との共催により、工芸品や踊りなど日本の各地域の伝統的な和風文化の紹介を目的に台南市で毎年開催されている事業である。

今回は、宮城県が社団法人台南市台日友好交流協会から依頼を受けたことから、本市のほか蔵王町、南三陸町及び宮城県芸術協会とともに、工芸品の展示や実演、琴の演奏などを行う予定となっている。

土木費

〔質疑〕除雪費として5千500万円余りが計上されているが、1シーズンにどのくらいの費用がかかっているのか。

〔答弁〕毎年の実績ベースでい

くと、平成29年度は若干積雪が多かったことから約5千200万円、平成30年度は約4千300万円がかかっている状況である。これは、除雪に関する機械借り上げやすべり止め砂の配置など、全てを含めた額となっている。

◎令和元年度白石市介護保険特別会計補正予算(第2号)

〔質疑〕運転技能向上トレーニング機器の導入について、その内容を伺う。

〔答弁〕基本的に高齢者のさまざまな集いの場に導入して利用いただくように考えている。

具体的には毎週火曜日に開催している認知症カフェ(オレシヅカフェ)に導入し、自己の運転技術や認知力の把握・向上を図り、不安の解消につなげていくことを想定している。

なお、機器は2台導入し、1台は介護予防センターへの設置、もう1台は要望に応じた貸し出しも行う予定である。

常任委員会

第58号議案から第68号議案までの計11議案について、定例会3日目(9月10日)の本会議において質疑が行われた後、第59号議案・白石市会計年度任用職員給与及び費用弁償に関する条例及び第60号議案・会計年度任用職員制度の導入に伴う関係条例の整備に関する条例、第63号議案・白石市材木岩公園等設置条例の一部を改正する条例の3議案は、総務産業建設常任委員会に審査が付託されました。

9月17日に審査が行われ、質疑応答を経て、すべての議案について、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

総務産業建設常任委員会

- 委員長 菊地 忠久
- 副委員長 大野 栄光
- 委員 大森貢之・澁谷政義
高橋純斎・小川正人
保科善一郎・森建人
角張一郎

◎会計年度任用職員制度の導入に伴う関係条例の整備に関する条例

◎白石市会計年度任用職員給与及び費用弁償に関する条例

〔質疑〕会計年度任用職員制度の任用期間は1年間で再任は妨げないとあるが、再任により長期間に渡り任用された場合、正式に雇用するなど、身分の取り扱いに変更はあるのか。

〔答弁〕再任により長期間にわたる任用もあり得るが、あくまで4月から3月までの年度ごとに任用される職員であり、長期間再任されても取り扱いに変更はない。

〔質疑〕会計年度任用職員制度の導入は、国の法律が改正

されたことによるものだが、それに伴う本市の財政負担について、国からの財政措置はなされるのか。

〔答弁〕現時点において、平成30年度と比較して、令和2年度で約6千400万円、令和3年度で約1億700万円の支出増と試算しており、財源的に大変厳しい状況にあることから、その財源については市長会を通じて国に要望している段階である。

◎白石市材木岩公園等設置条例の一部を改正する条例

〔質疑〕花と鳥とのふれあいの公園を企業へ売り払うことについて、地域住民の理解は得られているのか。

〔答弁〕この公園は、現在、公園内のトイレが利用される以外、ほとんど利用されていない状況であり、該当地域となる自治会長との協議において、本市の雇用確保の観点から企業への売り払いについては賛成である旨の話を受けている。

討論

決算審査特別委員会(9月12日)及び定例会最終日(9月24日)において、第56議案及び第57議案に対する討論が行われました。

定例会最終日に行われた討論の主な内容は、次のとおりです。

◎第56号議案・平成30年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

◎第57号議案・平成30年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定について

反対 伊藤 勝美

第56号議案については、平成30年度決算は1年間の行財政運営の結果であり、多くの成果があったことは事実であることから、その成果を否定するものではない。

しかし、決算は予算に基づいて執行された結果であり、財政指標だけで市民の暮らしがよ

い結果を生んでいるかどうかは、必ずしも連動していないと考える。

そこで、地方自治体の役割である「住民の福祉の増進」が最大限に図られたのかという点に判断の基準を置いてみると、疑義の念を抱かざるを得ない。

国や県からの補助金、交付金があるから事業を実施するという考えではなく、税金など自主財源を中心に、身の丈に合った市政運営ができる自治体ということを肝に命じ、真に市民の暮らしに必要な事業を実施していくことが、今後においても重要ではないかと考える。

確かに限られた財源で自治体の本旨である福祉の増進を効率的に図ることは容易ではないと理解できる。しかし、これが自治体の役割であり、福祉優先の財政運営こそ少子高齢化社会の中では、なおさら重要だと考える。

第57号議案については、下水道事業は本市の財政も厳しい中で運営を余儀なくされていることは承知している。

しかし、公共料金としての性を帯びている下水道使用料

改定を実施するまでに要した期間の短さ、市民に対しての説明は不十分であったのではないかと、段階的に改定することも可能だったのではないかと考える。

今後、使用料の値上げなど、市民負担が生ずる場合には、市民への説明を丁寧に行うことを強く求めるものである。

以上の理由から第56議案及び第57議案に反対である。

賛成 佐久間 儀郎

第56号議案については、高齢化が進行する中、本市においては扶助費を初めとする社会保障費、民生費、衛生費などの経常的経費の割合が増すばかりで、近年は思つほどに投資的経費に手当をする余裕がない状況が続いている。

依然として収支不足は変わらないに厳しい財政環境下において、当局は自主財源を初め依存財源の確保に懸命に努力するとともに、管理経費の抑制に努めたことから、財政運営の効率化が図られた決算であった

と考える。

また、多くの市民が復興を実感できるよう、第5次白石市総合計画を着実に推進するとともに、白石版地方創生総合戦略に基づき、限られた予算を効果的に、そして効率的に執行されたことは、大いに評価されるものである。

第57号議案については、水道事業会計は、給水人口の減少などによる影響で前年度に比べ悪化している。今後とも、収率向上基本計画に基づき、漏水の原因や地区の特定を継続して、実効性ある事業改善に期待するものである。

下水道事業会計は、昨年、当局が踏み切った下水道使用料改定による効果が、営業収益の増加にあらわれたものと見る事ができる。

賛否両論あったが、財政基盤の強化及び受益者負担による公平性の確保を目指すとしたよい兆しが、本決算にあらわれたものと認められる。

以上の理由から第56議案及び第57議案に賛成である。

市政に

対する一般質問

〓〓〓 14名の議員が質問〓〓〓

9月定例会の一般質問は、9月19日・20日の2日間にわたり行われました。質問の要旨は次のとおりです。

佐藤 秀行 パークゴルフ場の整備について 他

大森 貴之 期日前投票について 他

大野 栄光 安心して暮らせる集落づくりについて 他

角張 一郎 スマートインターチェンジの設置について 他

伊藤 勝美 山田市長の選挙公約について 他

沼倉 啓介 高齢者の免許返納と自治体の必要な取り組みについて 他

菊地 忠久 白石夏まつりについて 他

高橋 鈍斎 白石市第一幼稚園の休園について 他

森 建人 キャッシュレスについて 他

佐藤 龍彦 公共交通空白地域対策について 他

保科 善一郎 企業誘致、工業団地造成について 他

松野 久郎 白石市公共施設等総合管理計画について 他

佐久間 儀郎 薬物乱用防止に向けた取り組みについて 他

四竈 英夫 第6次白石市総合計画の策定について 他

パークゴルフ場の整備について

佐藤 秀行



るため、採算性、優位性なども含め、今後、総合的に調査研究していきたい。

◎ベラルーシ共和国との交流について

〔質問〕いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送るためにも、スポーツ環境の充実を図ることが必要である。その意味からも、早期のパークゴルフ場の整備を検討してみてはいかがか。

〔質問〕2020年東京オリンピックについて、本市はどのような形でベラルーシ共和国の新体操を応援しようと考えているのか、また、オリンピック以降の交流をどのように考えているのか。

〔答弁〕〔市長〕パークゴルフ場は、健康寿命の延伸、医療費の削減などさまざまな効果も生まれ、交流人口の拡大や関係人口の増加にもつながると考える。

〔答弁〕〔市長〕「ベラルーシ新体操応援ツアー」の実施を予定している。また、白石市にいなながらチームを応援できるように「パブリックビューイング」などを行なっていく予定である。

しかし、用地取得の問題、必要性・要望などの市民ニーズ、建設費や維持管理費、運営面など、さまざまな問題があり、多額の事業費も発生す

今後、物産、観光、スポーツ、文化芸術、青少年交流など幅広い分野で、具体的な交流につい

て交流先の都市も含め、検討していきたいと考えている。

◎仙台大学との連携について

〔質問〕仙台大学と教育の分野で何かしら連携ができないものか、若い人材の活用を通して、地域の活性化、交流人口の増加につなげることができないものかと考える。

その中で本市の施設等を有効に活用することが大事だと思いが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕仙台大学と各種分野で連携を図り交流を深めていくことは、地域の活性化、交流人口の増加など市政運営の面からも重要であると考えている。

その際、ホワイトキューブなどの既存施設や学校跡地など遊休施設の有効利用についても併せて検討しながら、連携・交流を進めていきたい。

期日前投票について

大森 貴之



今後もその数は増えていくと思われる。

投票率を上げるためにも、さらに有効利用すべきではないかと考えるが、期日前投票における事前宣誓書の改善などどのように進めていくのか。

〔質問〕第435回定例会において「今回の市議会議員一般選挙では、投票所入場券にバーコードを導入し、結果をみながら今後の混雑緩和を検討していきたい」と答弁されていた。

今回の選挙における期日前投票者数と、バーコード導入に伴い、待ち時間がどの程度緩和されたのか伺う。

〔答弁〕〔選挙管理委員会事務局長〕今回の市議会議員一般選挙の期日前投票者数は4千847人で、お待ちいただいた方でも10分程度で投票されていた。

〔質問〕期日前投票者は非常に多くなっており、

「白石市では備蓄よろず、災害時における応急生活物資の供給協定協力等に関する協定書のリストに加えるという形で協議を進めた」との答弁をされていたが、その後の経過を伺う。

〔答弁〕〔市長〕協定締結先へ確認したところ、優先供給は可能だが、本市以外からの要請も考えられ、速やかに応じられない場合もあると伺っていることから、さまざまな手段や対策を考えていく。

〔質問〕より速やかな受け渡しが必要であることを考慮すれば、最低限の備蓄も検討に値するのではないかと。

〔答弁〕〔市長〕今後さらに検討させていただく。

〔その他の質問〕
◎季節性インフルエンザ予防ワクチン接種の助成対象者の拡大について
◎太陽光発電に伴う蓄電池設備について

非常に多くなっており、第435回定例会におい

安心して暮らせる集落づくりに ついで

大野 栄光



ついでには、地元自治会長と相談し、地元の総意としての要望となつてから現地調査を行うこととしていた。

〔質問〕深谷北区地域は70戸からなる集落で、病院や学校にも近く住みよい地域であるが、集落内は狭い枝線で緊急車両の進入等も難しく不安を抱いている。

地元の人たちは、安全な幹線道路として市道不動沢線の整備を要望しているが、当局はどのような考えなのか伺う。

〔答弁〕【市長】市政に掲げている「住みたいまち・住み続けたいまち」の実現に向けては、道路等のインフラ整備も市民生活の基盤として重要な要素であると認識している。

市道不動沢線整備に

ントであった。

しかし、今年の夏まつりは少し事情が違い、突然白石の夏の夜から市民が消えたような気がする。

にぎわいと踊り手が消えた残像だけが残る思いは私だけなのか、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】今年には残念ながら商工会議所が実行委員会の事務局を降りられたことから、何とか夏まつりを開催していただきたいという思いで、さまざまな団体にお話をさせていたただいた。

引き受けの申し出があり、それに賛同する形でいろいろな方々から協力をいただきながら開催されたことは、非常に感謝している。

やれる形で協力してやっていこうという心意気を感じられ、すばらしい夏まつりだったと感じている。

〔その他の質問〕

◎河川の護岸について

スマートインターチェンジの設置 について

角張 一郎



乗効果を生み出すための、いわば地域活性化の起爆剤と考えている。

〔質問〕スマートインターチェンジの必要性、設置後の効果をどのように考えているのか伺う。

〔答弁〕【市長】今後、さらに人口減少や高齢化が進んでいく中、若い世代が安心して働き、子育てのできる地域環境の構築が必要であると考えている。

そのためにも地域間ネットワークを強化するための幹線道路など、社会基盤整備は必要不可欠である。

特にスマートインターチェンジの整備は、交流人口の拡大や円滑な物流の確保など、地域間の相互連携により相

乗効果を生み出すための、いわば地域活性化の起爆剤と考えている。

コストを抑える経済性などを総合的に評価して選定する考えである。

スマートインターチェンジが整備されれば、東北道のさらなる有効活用が図られ、新たな企業誘致の実現、中心市街地の活性化、観光振興など、さまざまな効果が発現されるものと期待している。

〔質問〕設置場所について、どのような基本方針のもとで検討しているのか伺う。

〔答弁〕【市長】整備効果が最大限発揮できる位置を選定していきたいと考えている。

観光面、物流面での利便性向上のため、中心市街地あるいは新たな工業団地へのアクセス性のほか、周辺の土地利用や環境に配慮しつつ、

コストを抑える経済性などを総合的に評価して選定する考えである。

〔質問〕スマートインターチェンジ周辺の整備について、どのようなイメージを持っているのか伺う。

〔答弁〕【市長】新たな工業団地の造成については、位置や規模等の検討をスマートインターチェンジの整備と同時に進めなければならないと考えている。

スマートインターチェンジの設置を含め、インフラ等を整備することにより、本市の新たな未来地図を描くというイメージである。

企業立地も含め、民間企業等が投資を考えるとときに、本市を選びたいくなるまちとなるよう、アクセスの容易性を十分に考慮し、スマートインターチェンジの価値を最大限に活用できるように検討していきたいと考えている。

観光面、物流面での利便性向上のため、中心市街地あるいは新たな工業団地へのアクセス性のほか、周辺の土地利用や環境に配慮しつつ、

山田市長の選挙公約について

伊藤 勝美



療圏域における医療連携の見解を伺う。

〔答弁〕市長「みやぎ県南中核病院との連携が必要であることは認識として変わっていない。」

〔質問〕掲げた選挙公約に対し、就任約3年間の実績をどのように捉えているのか伺う。

〔答弁〕市長「公約については、実現できたもの、途中なもの、時間のかかるものがあると感じている。」

また、市長に就任して議員時代以上に本市の財政の厳しさを痛感し、さまざまな市政課題をクリアするため、日々全力疾走、全力投球で努力してきた約3年間で考えている。

〔質問〕市民の安心を全力で守るため「刈田綜合病院を核とした地域医療の充実に取り組み」としているが、仙南医

が大切だと考えている。小中連携英語教育推進事業などを通して、今後とも教育委員会と密接な連携を図りながら、子どもたちの育成に努めていく。

◎職員の名刺について

〔質問〕職員の名刺をどのように作成しているのか伺う。

〔答弁〕総務部長「基本的に自費により作成している。市長、副市長、育長については公費で賄っている。」

〔質問〕職員の名刺も公費で負担すべきと考えられているのか。

〔答弁〕総務部長「財政状況が厳しい本市にとっては悩ましい問題であるが、名刺は個人のものという考え方から自費による作成を基本としている。」

〔その他の質問〕

◎交通安全対策について

◎小・中学校における「教員の働き方改革」について

高齢者の免許返納と自治体の必要な取り組みについて

沼倉 啓介



〔答弁〕企画情報課長

免許返納の促進や高齢ドライバーによる事故を減らすためには市民バスの運行を増やすことは有効である。

〔質問〕川原子地区は、高齢化率も高い水準を示し、市内からの距離もあり、高齢者の方々といえども自ら運転し、事をなすしかない状況を示している。

確かに現状を見ると、火・金曜日の交通手段の対応はしていただいている。

しかし、高齢者にとっ

ては病院通いは必須のため、それらの日以外はタクシーなどの手だてを利用するしかなく、多大の費用負担を余儀なくされ、我慢してしまふことが多々ある。

当地区への対応は、現状が精いっぱいなのか伺う。

いる。

ある地区での話し合いにおいて、現状をご理解いただき地区でも何かやれることはないかというお話もでてくる。そういった話し合いを今後とも継続して進めようとしている状況である。

◎本市の財政について

〔質問〕「入るを量りて出ざるを制す」このことさえも本市の財政状態を見ると通じなくなっている。

事業立案の段階から市民に開示してみるのも、このような財政を脱却する大きな力になるのではないかと。

〔答弁〕市長「財政負担の開示等も含めてその都度検討し、判断していきたい。」

また、一番重要なのはこの議会の場と考えている。市民の代表である議員と議論を尽くすこの場が説明責任の場でもあると認識している。

白石夏まつりについて

菊地 忠久



祭りを目指していきたい。

〔質問〕本年の白石夏まつりの感想を伺う。

〔答弁〕〔市長〕パレードがなかったのは残念だが、パレードだけが夏まつりではない。

夏まつりを継続したい、新たな形を模索していきたいという市民の思いが、今年の夏まつりになったと感じている。

〔質問〕来年度以降の白石夏まつりをどう考えているのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕本市の夏には欠かすことのできない大切なお祭りであると考えている。

実行委員会の組織体制により、行政主導ではなく市民の皆さまとともに作り上げていくお

〔質問〕実行委員会をやらず、既存の団体が年間行事の二環で行うことは可能か。

〔答弁〕〔市長〕既存の団体からの声があれば、ぜひお聞きしたい。積極的に手を挙げていただければ、それに越したことはない。

その中に市民を巻き込んで実行委員会が作られれば、より多くの声が反映できるお祭りになるのではないかと、積極的に関わってくださる団体や企業、市民に期待したい。

◎全国学力テストの結果について

〔質問〕平成31年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて感想を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕小学校

においては、改善の兆が見られたものの課題は残っている。

中学校においては、依然として全国県平均との乖離が見られるということを大変重く受け止めている。

〔質問〕課題を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕小学校での家庭学習の習慣が身につかないことが、引き続きで中学校にも影響しているのではないかと考えている。

量と質が全国平均と大きく差があるため、家庭学習の改善にも今更以上に取り組んでいく必要がある。

中学校の数学、国語において、勉強が好きか、授業が楽しいかという設問に対し肯定的な答えが多いことから、授業改善の取り組みによる改善の余地はあると考えている。

〔その他の質問〕

◎行政手続きのオンライン化について

◎風疹感染予防について

白石市第二幼稚園の休園について

高橋 鈍斎



申し上げた。

また、決定というのは、正確に申し上げると教育委員会としての案を決定したということである。

〔質問〕夏休み中の保護者全員が出席できない状況で、なぜ説明会を開催したのか。

〔答弁〕〔教育長〕できるだけ早期に説明を行いたいと考え、8月20日、21日に開催した。

夏休みだから出席できないということがないよう配慮し、第一幼稚園では63名中53名に出席いただいている。

〔質問〕第一幼稚園はほぼ全員、第二幼稚園は大体半分の出席と聞いている。休園は決定事項と聞くが、そのいきさつを伺う。

〔答弁〕〔教育長〕唐突感があつたことについては、説明会でもおわびを

〔質問〕保護者に対して、

これは休園であり、やめるわけではない旨の話はしたのか。

〔答弁〕〔教育長〕やめる、いわゆる「廃園」という言葉は一度も使ってはいない。

また、時期の問題で大変多くの意見があり、令和2年3月末から1年、休園の時期を延ばすよう変更した。

〔質問〕休園後は他の施設として使うのか。

〔答弁〕〔教育長〕休園は法律上、他の施設への転用はできず、再開の余地を残している。

〔質問〕職員に対して事前の話し合いはあったのか。

〔答弁〕〔教育長〕園長とは昨年度から話し合いを行ない、それ以外の職員には、案が固まった本年7月に説明している。

〔質問〕待機児童の対応について伺う。

〔答弁〕〔教育長〕現在、両幼稚園に待機児童はおらず、入園可能となっている。

キャッシュレスについて

森 建人



導入に向けた準備を進めているところである。

〔質問〕キャッシュレス・消費者還元事業の促進について伺う。

〔質問〕10月1日より消費税増税が行なわれ、増税対策としてキャッシュレス決済導入が必要とされる。

白石城歴史探訪ミュージアム、小十郎プラザ、おもしろい市場でのキャッシュレス決済の導入状況を伺う。

〔答弁〕〔市長〕白石城歴史探訪ミュージアムの売店では、交通系電子マネー、クレジットカード、スマートフォンアプリによる決済が可能となっている。

小十郎プラザでは、スマートフォンアプリによる決済が行える。おもしろい市場は、

事務局は引き受けられない旨の申し出があった。今年の夏まつりを受けて、来年度以降のようになるのかは未定である。

〔質問〕今年の夏まつりは白石市観光協会が主催者であった。

その他の団体にもお願いしたとのことだが、どのような団体で、どのような理由により実行委員会を引き受けてもらえなかったのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕団体については、公益社団法人白石青年会議所、ロータリークラブ、中央通り商店街振興組合にお願いした。

各団体からは、それぞれの団体で抱えている事業があるとのことから、実行委員長、また主催者を引き受けることは難しいという返事をいただいたものである。

〔答弁〕〔市長〕本市においては、本年7月2日に中央公民館で、8月1日には蔵王町、2日には大河原合同庁舎で宮城県主催のキャッシュレス説明会が開催され、本説明会には白石商工会議所も協力している。

◎夏まつりについて

〔質問〕商工会議所が主催者から外れ、事務局を引き受けなかったとのことであるが、来年以降も同様なのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕昨年12月27日に白石商工会議所の会頭ほか役員及び職員が市役所を訪れ、白石夏まつりの主催者から外れ、実行委員会の

公共交通空白地域対策について

佐藤 龍彦



〔質問〕本市の公共交通空白地域の現状について、どのように認識されているのか伺う。

〔答弁〕〔企画情報課長〕

本市の公共交通空白地域については、平成29年6月に策定した白石市地域公共交通網形成計画の策定過程で市内公共交通のカバー圏域について調査を実施している。

調査は、乗合タクシー、市民バス、宮交バス、JR東北本線などの公共交通の停留所などから距離があり、公共交通を便利に利用できない地域を把握するために実施したものである。

えている。

これまで公共交通空白地域の解消策として、郡山地区、小下倉地区及び大平地区で乗合タクシーの試験運行を行なった経緯があるが、いずれも恒常的な利用者の確保が見込めず、本運行に至っていない現状にある。

〔質問〕低所得、一人暮らしなど交通弱者のために、さらなる対策が必要ではないか。

〔答弁〕〔市長〕白石市高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業を実施しているが、ドライバー不足が深刻になっている。今般、策定中の第6次総合計画においても、住みなれた地域で生活していただくため、さまざまなご意見を頂戴していきたい。

〔その他の質問〕

◎本市の教員の労働環境及び教育環境について

◎校納金について

企業誘致、工業団地造成について

保科善一郎



〔質問〕私は工業団地の先行的造成を主張してきたが、市民の意見も地域振興に必要であるとの認識が強く、先行的造成で強力に推進すべきとの意見が多くある。

人口減少・超高齢化という直面する大きな問題に対し、地域の特徴を生かした持続可能な社会を創生することを目指し、活力ある地域社会を維持するための方策として工業団地の先行的造成を探究することが課題と考える。市長の施政方針では「企業誘致は、産業の振興や雇用の確保を図るため、今後も企業立地

セミナーに参加するなど市長自らさまざまな機会をとらえトップセールスを行い、関係機関と連携して企業誘致活動を積極的に行うとともに、市内立地企業への訪問活動を行い、よりよい関係構築を図ります。また、企業の要望などを踏まえ、新たな工業団地の造成に向けて検討を開始します」とある。

〔答弁〕「企業立地定住促進課長」企業誘致活動については、市内立地企業と良好な関係を結ぶとともに新たに本市に興味を持っていただくよう、企業立地セミナーへの参加や企業訪問を行なっている。

企業立地セミナーの昨年の実績は、東京セミナーで21社・30人、名古屋セミナーで17社・22人であった。

また、昨年の市内立地企業への訪問件数は延べ17件、上京などをした際の訪問件数は10件となっている。

〔質問〕工業団地造成について、現在の進捗状況を伺う。

〔答弁〕「市長」進捗状況については、現在本市で造成している工業団地はない。

スマートインターチェンジの一体整備のなかで工業団地整備も必要であると考えているが、工業団地はつくれば良いというものではなく、企業が注目する立地環境や条件の整備が重要となるという認識である。

【その他の質問】

◎白石城の景観整備について

◎地方創生総合戦略について

白石市公共施設等総合管理計画について

松野久郎



〔質問〕公共施設等の全庁的な体制の構築及び公共施設等を二元管理する組織設置の取り組み状況を伺う。

〔答弁〕「財政課長」公共施設等総合管理計画策定検討委員会を設置し、具体的な方向性を令和2年度に向けて作業を進めている。

〔質問〕施設の総量、施設管理の適正化の策定状況を伺う。

〔答弁〕「財政課長」施設の総量や市の人口動態、個々の利用状況を踏まえ、長寿命化または、複合化、集約化、用途の転用、廃止などの作業を進めている。

〔質問〕現在、使用を中止している施設等について、維持管理費を払い続けていくことを回避するため、他県においてはマイナス入札をした事例もあるが、所見を伺う。

〔答弁〕「市長」個別計画をしっかりと作り、それを国に認めていただいた後に、起債などさまざまな手法を考えていきたい。

◎白石市第一幼稚園の休園について

〔質問〕休園することを決断するまでのプロセスと理由を伺う。

〔答弁〕「教育長」少子化に伴い園児が減少している中、幼児教育をより充実させることが第一の理由である。

加えて、保育ニーズの変化も大きな要因であり、一園にすることで、保護者の保育ニーズに少

しても応えることができるかと考え、休園を決定した。

〔質問〕早い時期に保護者会などを開き、検討する必要があるのではないか。

〔答弁〕「教育長」休園という選択を行なった後、単に一園を残すのではなく、無償化に伴った付加価値を付けるための検討や調整を行っていた。

そのため、この時期になってしまったという経緯がある。

〔質問〕今後、保護者や市民へどのように説明していくのか伺う。

〔答弁〕「教育長」保護者の意見を踏まえ、休園に向けての課題を把握し、解決への取り組みを行なっていく。

両園との関わり深い自治会長には趣旨を説明しており、市民一般に向けた説明は現在、想定していない。

【その他の質問】
◎消費税増税について

薬物乱用防止に向けた取り組みについて

佐久間 儀 郎



これまでどのようなことを行なってきたのか。また、今後の対策についてどのように考えているのか。

〔質問〕国立精神・神経医療研究センターが実施した薬物乱用などの意識・実態調査の結果、大麻や覚醒剤、危険ドラッグの使用を「少々なら構わない」「全く構わない」と考える中学生が増えていることがわかった。

センターの研究室長は、若者の間で違法薬物を容認する考え方が広がっている原因の一つが、インターネットであると述べている。これから社会を担う青少年に対する啓発強化と薬物に係る教育の一層の徹底が必要と考

えるが、本市において

でなく、薬物乱用の要因についても取り上げ、断り方など適切な対処を考えさせる授業を行なっている。

〔質問〕文部科学省では、学校薬剤師など薬物等に関する専門的な知識を有する者の協力や教員以外の指導者による効果的な指導を求めているが、このような体制づくりはなされているのか。

〔答弁〕〔教育長〕平成30年度においては、市内全ての小中学校で専門知識を持った外部講師を活用している。

今年度も同様に実施する予定である。

〔質問〕警察と学校関係者等の連携状況を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕市内各中学校において、学校警察連絡協議会との連携を図った取り組みを行なっている。

〔その他の質問〕

◎避難行動要支援者名簿の作成・活用について

第6次白石市総合計画の策定について

四 竈 英 夫



〔質問〕本市では、平成22年度に策定した第5次白石市総合計画が令和2年度で最終年度を迎えることから、第6次計画の策定に着手した。

この計画の基本理念と計画に対する期待などについて伺う。

〔答弁〕〔企画情報課長〕7月から8月にかけて無作為に抽出した市民3千人を対象にアンケートを実施し、第5次総合計画に対する満足度や今後の重要度について伺った。

さらに庁内においても21の施策についての取り組み状況、関連事業の今後の方向性などを評価するためのシートを作成し、検討を行なっている。

これらアンケートの結果と評価シートの集計・分析を行い、第6次総合計画の策定に生かしていきたい。

◎移動図書館「こまくさ号」の運用について

〔質問〕移動図書館「こまくさ号」は、図書館から遠い地区の方々に図書に触れ親しんでもらうため運行されているが、現在の利用状況と今後の運行計画について伺う。

〔答弁〕〔教育長〕平成30年度は毎月16カ所のサービスポイントと2カ月ごとに20カ所の配本文庫を巡回し、合計2万4千683冊を貸し出ししており、多くの利用をいただいている。

こまくさ号の運行計画については、必要に応じて見直しを図っており、利用者の少ない所は廃止するとともに、利用者の多い所は新たに加えている。

今後ともさまざまなニーズを捉えて運行計画を検討していきたい。

◎かわまちづくり事業の今後について

〔質問〕小原材木岩公園一帯を整備し、観光のスポットにする「かわまちづくり事業」の進捗状況を伺う。

〔答弁〕〔都市整備課長〕平成28年度より一帯の整備について、関係機関と協議を進めるとともに基本構想の作成を行なった。

しかし、認定の要件として一定規模の事業量と期間の設定や年間集客数の見込みなどを精査する必要があるので、申請については見合わせている状況である。

〔その他の質問〕

◎図書館の整備計画について

各種委員会設置

9月定例会の本会議において、市政や議会に係る課題、諸問題解決のため、四つの委員会等の委員の選任が行われました。

各委員会等の名称、活動事項及び委員は次のとおりです。

スマートインターチェンジ 設置推進特別委員会 (8名)

- 1 スマートインターチェンジ設置に関する事
- 2 その他スマートインターチェンジに関する事

委員長 四 電 英 夫
 副委員長 大 野 栄 光
 委員 大 森 貴 之
 委員 伊 藤 勝 美
 委員 保 科 善 一 郎
 委員 佐 久 間 儀 郎
 委員 菊 地 忠 久
 委員 松 野 久 郎

議会広報委員会 (9名)

- 1 市議会だよりの編集及び発行に関する事
- 2 市議会ホームページの運営に関する事
- 3 その他議会の広報に関する事

委員長 四 電 英 夫
 副委員長 平 間 知 一
 委員 大 森 貴 之
 委員 佐 藤 龍 彦
 委員 伊 藤 勝 美
 委員 高 橋 純 斎
 委員 高 子 秀 明
 委員 森 建 人
 委員 角 張 一 郎

政策企画調整会議 (8名)

- 1 市民意見などを政策立案や提言とするための対応方針に関する事
- 2 市民との意見交換会及び一般会議に関する事

委員長 松 野 久 郎
 副委員長 伊 藤 勝 美
 委員 大 森 貴 之
 委員 大 野 栄 光
 委員 保 科 善 一 郎
 委員 森 建 人
 委員 角 張 一 郎
 委員 菊 地 忠 久

議会改革推進会議 (8名以内)

- 1 議会のあり方に関する事
- 2 議会改革が必要な諸課題に関する事

委員長 佐 藤 秀 行
 副委員長 佐 藤 龍 彦
 委員 伊 藤 勝 美
 委員 保 科 善 一 郎
 委員 佐 久 間 儀 郎
 委員 四 電 英 夫
 委員 菊 地 忠 久
 委員 松 野 久 郎



改選後の初議会

8月臨時議会

8月7日に第436回市議会臨時議会が招集され、次の議案が提案されました。

◎監査委員の選任について

同意

監査委員(議会選出)

松野 久郎 議員

投票総数	18票
有効投票	18票
無効投票	0票
有効投票中	
澁谷 政義 議員	8票
四 電 英 夫 議員	6票
大野 栄 光 議員	4票

また、今回の臨時会は、市議会議員改選後の初議会で、正副議長の選挙や議会運営委員会、常任委員会等の委員の選任が行われました。
その結果は次のとおりです。

◎議長選挙

投票総数	18票
有効投票	17票
無効投票	1票
有効投票中	
小川 正人 議員	9票
沼倉 啓介 議員	8票

◎副議長選挙

投票総数	18票
有効投票	18票
無効投票	0票
有効投票中	
佐久間 儀 郎 議員	18票
佐藤 秀 行 議員	17票
大森 貴 之 議員	17票
伊藤 勝 美 議員	17票
平間 知 一 議員	17票
保科 善 一 郎 議員	17票
松野 久 郎 議員	17票

議会運営委員会 (7名)

議会の運営、会議規則及び委員会条例などに関することについて、審査や調査をします。

総務産業建設常任委員会 (9名)

総合計画、財政、市税、生活環境、農業、商工業及び観光などに関することについて、審査や調査をします。

委員長	菊地 忠久
副委員長	大野 栄光
委員	大森 貴之
委員	澁谷 政義
委員	高橋 純斎
委員	小川 正人
委員	保科 善一郎
委員	森 建 人
委員	角 張 一 郎

厚生文教常任委員会 (9名)

社会福祉、保健衛生、教育及び生涯学習などに関することについて、審査や調査をします。

委員長	佐藤 秀行
副委員長	平間 知一
委員	佐藤 龍彦
委員	伊藤 勝美
委員	沼倉 啓介
委員	佐久間 儀郎
委員	四電 英夫
委員	高子 秀明
委員	高野 久郎
委員	松野 久郎

仙南地域広域行政事務組合議会議員 (2名)

議員	小川 正人
議員	佐久間 儀郎

宮城県後期高齢者医療広域連合議会議員 (1名)

議員	大森 貴之
----	-------

白石市外二町組合議会議員 (7名)

(公立刈田総合病院議会議員)

議員	伊藤 勝美
議員	平間 知一
議員	保科 善一郎
議員	角 張 一 郎
議員	菊地 忠久
議員	佐藤 秀行
議員	松野 久郎

図書室運営委員会 (5名)

議会図書室の運営に関することについて協議します。

委員	大森 貴之
委員	高子 秀明
委員	森 建 人
委員	角 張 一 郎
委員	菊地 忠久

人事

9月定例会において、次のとおり選任・推薦することに同意しました。

〔教育委員会委員〕

(任期：令和元年10月1日～令和5年9月30日)

佐藤 敏義 氏

〔人権擁護委員〕

(任期：令和2年1月1日～令和4年12月31日)

大橋 純 氏

大浦 なつ 氏

スマートインターチェンジ設置を国土交通省へ要望

7月1日、スマートインターチェンジ設置推進特別委員会の四電英夫委員長並びに菅野恭子副委員長が、山田市長と共に国土交通省を訪れ、道路局ほか関係各所に「スマートインターチェンジの整備に関する要望書」を提出しました。要望先では、要望事項や要望趣旨、期待できる効果などを説明し、スマートインターチェンジ設置についての理解を求めました。



要望書提出の様子(国土交通省道路局)

議会を傍聴してみませんか！

12月定例会は、12月6日(金) 午前10:00開会予定です。

- 8月臨時会の傍聴者数 2人
- 9月定例会の傍聴者数 50人
- ライブ中継の視聴者数 1,677人

第437回 市議会定例会決算審査特別委員会 (9月12日) 意見が分かれた議案の賛否一覧

件名	委員氏名	議決結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
			大森 貴之	佐藤 龍彦	伊藤 勝美	澁谷 政義	大野 栄光	沼倉 啓介	高橋 純斎	小川 正人	平間 知一	保科善一郎	佐久間儀郎	四電 英夫	高子 秀明	森 建人	角張 一郎	菊地 忠久	佐藤 秀行	松野 久郎
第56号議案 平成30年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	×	×	欠	○	欠	○	△	×	×	○	委	○	○	○	○	○	○	△
第57号議案 平成30年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定について	認定	○	×	×	欠	○	欠	○	△	×	×	○	委	○	○	○	○	○	○	△

※「○」⇒賛成した委員、「×」⇒反対した委員、「欠」⇒欠席した委員、「委」⇒委員長のため表決に加わらない
※決算審査特別委員会は議長及び議会選出監査委員を除く全議員で構成される

第437回 市議会定例会 (9月24日) 意見が分かれた議案の賛否一覧

件名	議員氏名	議決結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
			大森 貴之	佐藤 龍彦	伊藤 勝美	澁谷 政義	大野 栄光	沼倉 啓介	高橋 純斎	小川 正人	平間 知一	保科善一郎	佐久間儀郎	四電 英夫	高子 秀明	森 建人	角張 一郎	菊地 忠久	佐藤 秀行	松野 久郎
第56号議案 平成30年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	×	×	棄	○	×	○	議	×	×	○	○	欠	○	○	○	○	○	○
第57号議案 平成30年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定について	認定	○	×	×	棄	○	×	○	議	×	×	○	○	欠	○	○	○	○	○	○

※「○」⇒賛成した議員、「×」⇒反対した議員、「欠」⇒欠席した議員、「棄」⇒棄権した議員、「議」⇒議長のため表決に加わらない

編集後記

市議会議員改選後、新体制での初めての「議会だより」をお届けします。どうぞよろしくお願いたします。

作家の太宰治は「優秀な人とはどういう人ですか」と聞かれ「優しい人です」と答えたそうです。

優しいという字は人を憂うと書きます。相手を慮る。相手の心に想いを致す。困っていれば一緒に心配し、解決策を考える。

私たちの使命は、市民皆さまの心に寄り添い、生活の向上と安心安全な生活の実現に努めることだと思います。

市民皆さまのご健勝をお祈りし、併せて議会だよりのご愛読をお願い申し上げます。

議会広報委員会

委員長 四電 英夫

議会広報委員会 委員

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 四電 英夫 |
| 副委員長 | 平間 知一 |
| 委員 | 大森 貴之 |
| 委員 | 佐藤 龍彦 |
| 委員 | 伊藤 勝美 |
| 委員 | 高橋 純斎 |
| 委員 | 高子 秀明 |
| 委員 | 森 建人 |
| 委員 | 角張 一郎 |